

第2回川口駅周辺在り方検討委員会
～川口駅周辺の課題と目指すべき方向性～

- (1) 「川口駅周辺まちづくり指針」の策定内容（素案）
- (2) 本日はご議論いただきたい事項

(1) 「川口駅周辺まちづくり指針」の策定内容（素案）

川口駅周辺 まちづくり ビジョン (R4策定)

◆川口駅周囲の環状道路周辺までのエリアを対象として、
「目指す方向性」と6つの重点項目ごとの目標と取組方針を設定

目指す方向性

「住みやすいまち」を超えて、働き、憩い、文化・芸術に親しめるまちとして
発展することで、「住み続けたいまち」・「さらなる選ばれるまち」へ

重点項目
・取組方針

1. 回遊性

2. 都市機能

3. オープン
スペース

4. 交通

5. 都市景観
・環境

6. 防災

「駅まち空間」における具体化

川口駅周辺 まちづくり 指針 (今回策定)

◆駅・駅前広場と隣接街区（「駅まち空間」）までのエリアを対象として、
将来の中距離電車停車等の考慮すべき事項を踏まえ、官民共有のガイドラインとして具体的な空間整備の方針等を整理

考慮すべき事項

- ・中距離電車停車の効果を最大化
- ・スマートシティ化等の社会情勢の変化

現状と課題の分析・精査

目指すべき将来像

【全体のコンセプトを検討】

●●として「さらなる選ばれるまち」へ

「選ばれる」ための戦略

- ①拠点力の強化～交通結節機能の強化・新たな都市機能の集積～
- ②空間魅力の創造～歩きたくなる・過ごしたくなる空間づくり～
- ③ブランド力の確立～「川口ならではの」魅力の可視化と発信～

空間整備の
取組方針

主な取組等

具体化に向けて
配慮すべき視点

既存ストックの
最大限の活用

将来変化への
柔軟性の確保

公民連携の推進

まちづくりDX

官民共有のガイドラインとして機能

個別の事業

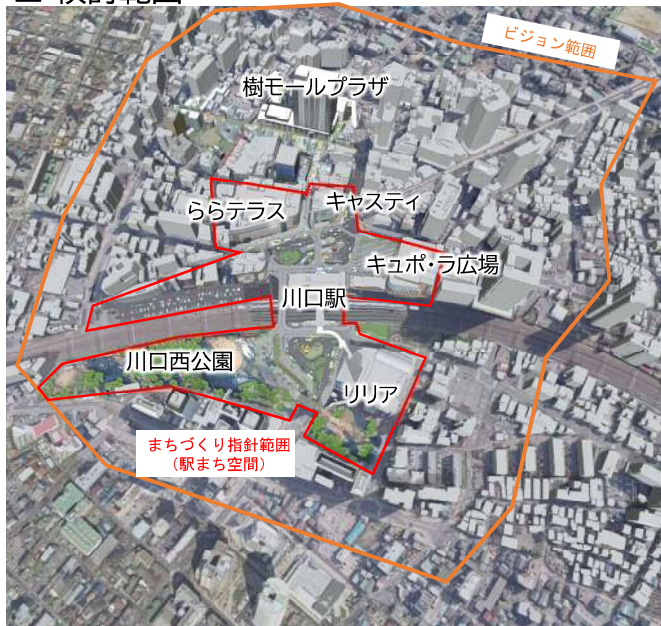
川口駅の再整備

公共施設の整備・活用

民間による開発等

- 川口駅周辺まちづくりビジョンで示された内容や第1回検討委員会の結果等を踏まえ、現状と本指針で解決に向けて取り組むべき課題の整理を行う
- 加えて、今後アンケート調査等を通じ、駅周辺施設の利用実態や利用者目線での課題について意見を収集する

■ 検討範囲



■ 川口駅周辺のまちの特徴

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 駅利用者の多くが
通勤・通学目的 | 東京都方面等の
他市区町村に
通勤する人が多い |
| 比較的若年層の
単独・核家族居住者
が多い | 公共公益施設が既に
一定に整備済み |
| コンビニやスーパー
等、日常生活に関する
店舗割合が高い | 周辺の主要駅周辺
と比べ、昼間の滞
留人口が少ない |

■ まちづくりビジョンで掲げた課題(抜粋)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 雨に濡れない経路の整備が不十分 | 単調で歩きたくなる工夫が乏しい |
| 訪れたくなる魅力的な空間が不足 | 多様な活動を誘発する仕掛けが不足 |
| 緑やオープンスペースが少ない | 滞在を促す空間が不足 |
| バス停が分散している | 各施設への案内が不足 |
| 連続した緑化空間が不足している | ランドマークとなる景観がない |
| 帰宅困難者受入対策が不十分 | 情報通信技術が未活用 |

など

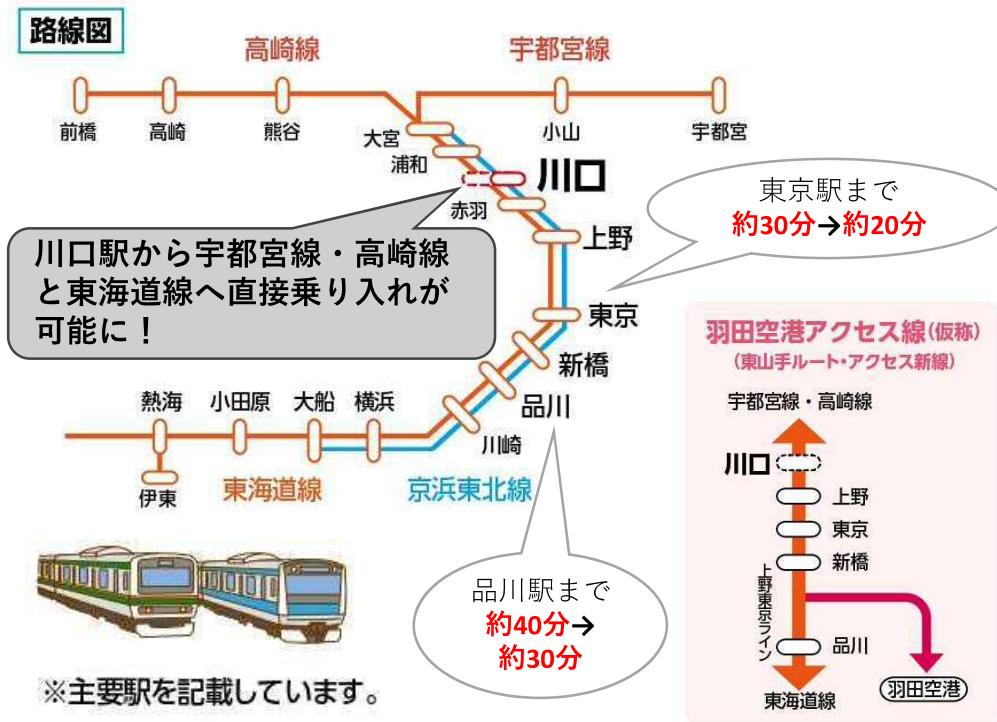
■ 第1回在り方検討委員会での課題(抜粋)

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| キュポ・ラ広場を有効に活用できていない | 交通広場内での交通輻輳 |
| 駅前広場内の空間を効率的に使えていない | オープンスペースでの
官民連携等による利益の創出 |
| 鉄道に乗る目的以外の利用が少ない | 民間施設に頼る機能の担保 |
| 将来想定されるモビリティへの対応 | 駅前の便所の不足 |
| リボンシティ方面への動線の少なさ | ソフト面のマネジメントの手法 |

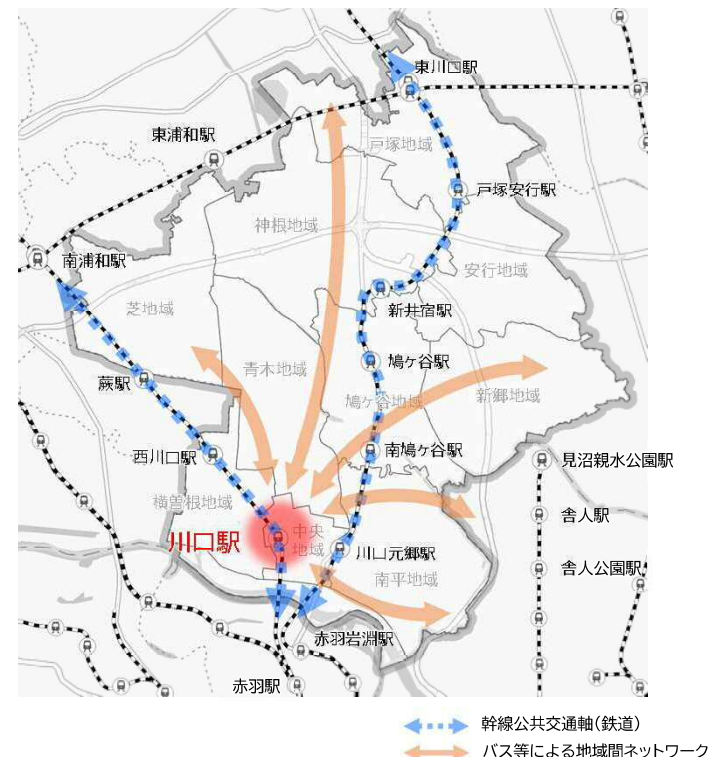
など

- 上野東京ラインの川口駅への停車とこれに合わせた川口駅周辺の再整備は、川口のまちづくりにおける大きな変革期であり、その効果の最大化が求められる。
- ・広域的な視点では、首都圏の都市間競争の中で川口の地位を引き上げる大きな契機。東京のベッドタウンとしての強みを磨いていくことに加え、通過点ではない「目的地」としての機能を強化。
 - ・川口市内の視点では、川口駅の交通結節拠点としての機能を強化すること等により、中距離電車停車の効果を市内全域に波及

■ 川口駅の広域的な位置づけ



■ 川口駅の市内における役割



- 川口駅周辺まちづくりビジョンにおいて掲げる「目指す方向性」は以下のとおり。
 - ・「住みやすいまち」を超えて、働き、憩い、文化・芸術に親しめるまちとして発展することで、「住み続けたいまち」・「さらなる選ばれるまち」へ
- 上記の方向性や、前頁の中距離電車停車の効果を最大化する観点等を踏まえ、目指すべき将来像を関係者間で共有するための全体コンセプトや居住地として、来訪の目的地として、「選ばれるまち」となるためにとるべき戦略を検討。

目指すべき将来像（素案）

【全体コンセプトを検討】
●●として「さらなる選ばれるまち」へ

「選ばれる」ための戦略（素案）

1. 拠点力の強化 ～交通結節機能の強化・新たな都市機能の集積～

- (例) ・上野東京ライン停車に伴う広域アクセス性の向上を活かした交通結節点としての機能強化
・居住機能・居住者向けの生活支援機能に加え、新たな業務・交流機能等の導入・誘致

2. 空間魅力の創造 ～歩きたくなる・過ごしたくなる空間づくり～

- (例) ・駅前を起点とした回遊性の高い歩行環境の整備
・オープンスペース等の公共空間の有効活用により滞留・交流の場を形成

3. ブランド力の確立 ～「川口ならではの」魅力の可視化と発信～

- (例) ・文化芸術や緑等の地域の資源を活かした他都市との差異化
・戦略的な情報発信とプロモーション

○まちづくり指針に基づき各取組を具体化・実現していくに当たり配慮すべき横断的な視点の整理を検討

具体化に向けて配慮すべき視点（素案）

1. 既存ストックの最大限の活用

- ・川口駅周辺には、デッキネットワークや駅周辺公共公益施設等のこれまでのまちづくりの蓄積があることから、これらの既存ストックを最大限活用することで、地域のアイデンティティの継承とコストの縮減を図る
- ・老朽化・陳腐化等による施設の更新・再編が必要な場合には、必要に応じ周辺施設と組み合わせた適切なリニューアル
- ・有効活用されていない公共空間について公民連携による積極的な利活用方策の検討

2. 将来変化への柔軟性の確保

- ・社会情勢の変化や技術進展、人口動態の変化等を見据え、硬直的な計画ではなく、変化に適応できる柔軟性を持った手法を検討

3. 公民連携の推進

- ・行政、交通事業者、開発事業者、土地所有者等が方針を共有し、それぞれの事業を一体的かつ戦略的に推進できるような体制の構築
- ・地域全体の魅力と価値の向上に向けた公民連携による施設の整備やエリアマネジメント体制の構築

4. まちづくりDX（デジタルトランスフォーメーション）

- ・データやデジタル技術を活用したプランニングや合意形成、マネジメントの高度化
- ・モビリティの多様化等の新たな技術への対応

- ①指針全体の構成に問題や改善すべき点はないか
- ②現状の課題分析に関し、ご意見や不足している事項等はないか
- ③目指すべき将来像や戦略へのご意見やご提案がないか
- ④空間整備の取組方針へのご意見やご提案がないか
- ⑤具体化に向けて配慮すべき視点に関し、ご意見や追加すべき視点はないか
- ⑥その他、本検討委員会の進め方等を含め、ご意見やご要望はないか

(2) 本日ご議論いただきたい事項

